

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	広尾町地籍図管理システム作成委託業務			事業開始年度	H27	実施計画 事業番号	4-3-②-1
担当課	建設水道課	担当係	土木係	担当者	三上昌樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☐ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	4	住みやすさが感じられるまちづくり
	政策	3	自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	②	計画的で有効な土地利用の推進
	具体的な施策		
めざす目的成果	地籍面積計算簿を電子化することにより、町民・関係業者からの問い合わせ、閲覧・交付作業に対するサービスの向上と大幅な時間短縮が図られ業務の円滑化が図ることが出来る。また、データ(紙)の劣化が著しく電子化することで永久に保存管理することが出来る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	町民、関係業者	
	手段・手法	地籍図、面積計算簿の電子化(システム化)	
	サービス内容	閲覧、交付作業の時間短縮	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳					
コスト	事業費	委託費		3,888		3,618		4,169					
		事業費合計		3,888		3,618		4,169					
人件費	常勤職員(延)		10人日	322	10人日	312	10人日	319					
	臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0					
	人件費合計		322		312		319						
	総事業費		4,210		3,930		4,488						
財源内訳	国道支出金												
	地方債												
	その他特定財源												
	一般財源		4,210		3,930		4,488						
	財源合計		4,210		3,930		4,488						
H29年度 実施内容		野塚市街・豊似市街・音調津市街 2,171筆の地籍図、面積計算簿の電子化											
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		H30(目標)		目標年度 最終目標値	
地籍図、面積計算簿の電子化		地籍図、面積計算簿の筆数 (野塚市街・豊似市街・音調津市街)		筆		2515 (2515)		2171 (2171)		— ()		H 32 年度 (32)	
						()		()		— ()		H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		H30(目標)		目標年度 最終目標値	
閲覧、交付作業に対するサー ビスの向上と大幅な時間短縮 が図ることが出来る。						()		()		— ()		H 年度 ()	
						()		()		— ()		H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1. 妥当性の評価			
20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
	☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	
	② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
	☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	
2. 公平性の評価			
20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
	☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	一般町民 誰もが閲覧
	② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
	☐ 十分適切である(10) ☒ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	町費による
3. 有効性の評価			
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明	閲覧、交付作業に対するサービスの向上 データ(紙)をく電子化することで永久に保 存管理することが出来る。
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。		
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明	
4. 効率性の評価			
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。		
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明	
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。		
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率である(0)	説明	
5. 優先性の評価			
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。		
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明	

合計	88 /100	事業実施の課題・方向性	昭和31年～昭和40年に作成された地籍図、面積計算簿のデータ化が完了(H32予定)するまでの継続が必要
----	------------	-------------	---

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (自己評価)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度～H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
主管者 会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度～H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	公園・緑地草刈清掃業務委託			事業開始年度		実施計画 事業番号	4-3-③-2
担当課	住民課	担当係	環境生活係	担当者	三浦 弘樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☐ 町が直接実施 ☒ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他()						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4	住みやすさを感じられるまちづくり
	政策	3	自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	③	利用しやすい公園・緑地の整備
	具体的な施策	1	公園・緑地の維持管理の推進
めざす目的成果		公園・緑地の適正な維持管理を推進し、地域コミュニティの場としての使用環境の向上を図る。	
事業 内容	対象 (誰を、何を)	公園・緑地・墓地	
	手段・手法	草刈、枝剪定、ごみ処理等清掃管理	
	サービス内容	公園・緑地等の使用環境の向上	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳			
コスト	事業費	委託料		17,986		18,004		18,489		委託料	
	事業費合計		17,986		18,004		18,489				
	人件費	常勤職員(延)		5人日	161	5人日	156	5人日	160		
臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0				
人件費合計		161		156		160					
総事業費		18,147		18,160		18,649		30年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金								一般財源		
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		18,147		18,160		18,649				
	財源合計		18,147		18,160		18,649				
H29年度実施内容		公園・緑地・墓地墓地等の草刈・清掃等 管理面積 264,862㎡									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 H30(目標) 最終目標値	
						()		()		H 年度 ()	
						()		()		H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 H30(目標) 最終目標値	
						()		()		H 年度 ()	
						()		()		H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1. 妥当性の評価			
16	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
	☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	
	② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
	☐ 現手法が最適である(10) ☒ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	公園・緑地の管理について、環境生活係の所管が適当か
2. 公平性の評価			
20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
	☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	住民が広く利用している。
	② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
	☐ 十分適切である(10) ☒ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	
3. 有効性の評価			
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明	住民が快適に利用できる。
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。		
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明	
4. 効率性の評価			
16	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。		
	☒ 比較的低コストである(10) ☐ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明	草刈における町の統一単価は、道単価と比べて相当低くなっている。
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。		
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)	説明	
5. 優先性の評価			
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	公園等の利用が出来なくなる。
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。		
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明	公園等の利用が出来なくなる。

合計	88 /100	事業実施の課題・方向性	今後も引き続き実施
----	------------	-------------	-----------

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
主管者会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	公園施設長寿命化事業			事業開始年度	H26	実施計画 事業番号	4-3-③-3
担当課	建設水道課	担当係	土木係	担当者	三上昌樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☐ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4	住みやすさが感じられるまちづくり
	政策	3	自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	③	利用しやすい公園・緑地の整備
	具体的な施策	2	都市公園の整備
めざす目的成果	劣化している都市公園内の遊具・木橋及び木道を補修し、来訪者の安全確保を図る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	町民	
	手段・手法	修繕	
	サービス内容	スポーツやイベント、憩いの場として、安心して利用できる地域コミュニティの場を提供	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳	
コスト	事業費	工事請負費		1,147		1,136		1,264	
	事業費合計		1,147		1,136		1,264		
	人件費	常勤職員(延)		10 人日	322	10 人日	312	10 人日	319
		臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計		322		312		319	
総事業費		1,469		1,448		1,583			
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		1,469		1,448		1,583		
	財源合計		1,469		1,448		1,583		
H29年度 実施内容		丸山都市公園(四阿・ベンチ・木道・丸太階段・テーブルベンチ・コンビネーション遊具)の修繕							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H28実績	H29実績		目標年度	
					H28(目標)	H29(目標)	H30(目標)	最終目標値	
都市公園の遊具数		劣化した遊具数		箇所	6	6	—	H 年度	
					(6)	(6)	()	()	
							—	H 年度	
					()	()	()	()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H28実績	H29実績		目標年度	
					H28(目標)	H29(目標)	H30(目標)	最終目標値	
劣化した遊具を補修することにより、来訪者の安全を図る							—	H 年度	
					()	()	()	()	
							—	H 年度	
					()	()	()	()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価			
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		説明
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) 管理者として適正な維持管理が必要 ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)		
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) 専門業者による修繕 ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)		
	2. 公平性の評価			
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		説明
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) 一般町民 誰もが利用できる ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)		
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☐ 十分適切である(10) ☒ 受益者負担なし(10) 町費による ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)		
3. 有効性の評価				
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		説明	
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) 来訪者の安全を図ることが出来る ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)			
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)			
4. 効率性の評価				
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。		説明	
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)			
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率性は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)			
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		説明	
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)			
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)			
合計	88	事業実施の課題・方向性	劣化箇所を把握し、適正な維持管理を実施する。	

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロセス)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
	主管者会議評価	事業の方向性	
投入資源の方向性		事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 縮小 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
総合コメント			

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	大丸山森林公園施設改修等事業			事業開始年度		実施計画 事業番号	4-3-③-4
担当課	水産商工観光課	担当係	サンタランド係	担当者	今村 正樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☐ 町が直接実施 ☒ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4	住みやすさを感じられるまちづくり
	政策	3	自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	③	利用しやすい公園・緑地の整備
	具体的な施策	3	大丸山森林公園の充実
めざす目的成果	観光地として施設改修等することで、来場者が心地良く楽しむことができる。楽しんでいただくことで再度の誘客につながり商工観光振興及び産業振興を図る。		
事業 内容	対象 (誰を、何を)	町民、観光客	
	手段・手法	サンタランドの聖地として公園施設を整備し、観光客に来町していただく。	
	サービス内容	草花の観覧	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳			
コスト	事業費	委託料	5,540		6,134		5,812		【委託料】 大丸山森林公園花壇管理委託2,137 大丸山森林公園管理委託3,675 【工事請負費】 花畑「サンタの丘」造成植栽工事227		
		工事請負費	788		3,198		227				
		事業費合計	6,328		9,332		6,039				
	人件費	常勤職員(延)	1人日	33	1人日	32	1人日	32			
		臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0			
		人件費合計	33		32		32				
総事業費		6,361		9,364		6,071					
財源内訳	国道支出金							まちづくり基金繰入金200			
	地方債										
	その他特定財源					200					
	一般財源	6,361		9,364		5,871					
	財源合計	6,361		9,364		6,071					
H29年度 実施内容		公園管理、花壇管理、庭木剪定、除雪									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 最終目標値 H30(目標)	
大丸山森林公園入場者数		入場者数が多いほど、観光振興が期待できる。		人		27,140 ()		21,870 ()		— (28,000) (30,000)	
										— () ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 最終目標値 H30(目標)	
										— () ()	
										— () ()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価			
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	町が実施すべき事項であり、手段及び方法について現手法が最適である。
	2. 公平性の評価			
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	全住民が対象となるため、公平である。
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☒ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	
3. 有効性の評価				
12	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。			
	☐ とても有効である(10) ☒ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明		
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明		
4. 効率性の評価				
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。			
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明		
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)	説明		
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。			
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	サンタランドのまちとしてまちづくりをすすめているため、施設修繕含めた整備は必要である。	
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明	サンタランドのまちとしてまちづくりをすすめているため、影響は大きい。	

合計	84 /100	事業実施の課題・方向性	サンタランドのまちとしてまちづくりをすすめているため、施設修繕含めた整備は必要である。
----	------------	-------------	---

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
	主管者会議評価	事業の方向性	
投入資源の方向性		事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
総合コメント			